

コロナ禍の学び 子ども会社「ならにこ漆器会社」の挑戦

木曽漆器で栄えた漆工町 木曽漆器伝統工芸士から学ぶ伝統の授業



コロナ禍で漆器祭りが開けない → 子ども会社「ならにこ漆器会社」

☆校長の願い：コロナ禍の中で子どもに下を向けさせない・志を持ってチャレンジする子どもたちに

☆担任の願い：子どもたちが自ら切り開く活動を！「自分たちで会社を作ってみませんか！」

ならにこ漆器会社

<子どもたちの目標>

- 一、お客さんに最高の品を買ってもらい、笑顔になってもらおう。
- 二、地域を盛りあげ、こうけんしよう。
- 三、学校の伝統をうけつぎ、つなげよう。
- 四、しっき販売の苦労や楽しさを味わおう。



信毎こども新聞R3.5.29

摺り箸を通して、本校の特色ある教育活動を知っていただく。校長が子どもたちに摺り箸100膳を発注

協働的な課題:納得するまでとことん話し合う子どもたち

お客さんに
喜んでもら
える
値段設定



コロナ禍での開店の
可否判断「自分たち
の商品は自分たちが
責任を持って売る」

広報活動

「会社のことを、木曽
漆器の素晴らしさを
大勢の人に
知ってほしい」



ならにこ漆器会社・摺り箸の思わぬ反響！



☆摺り箸に込めた子どもたちの純粋な思いを応援して下さる方々の存在

1. 成果と課題

- (1) コロナ禍での学びを止めない「本校ならではの木曽漆器の魅力を学ぶ新しい挑戦」
- (2) 「仲間とともに難しいこと、うまくいかないことを乗り越えての成功体験」
- (3) 「仲間や保護者、地域からの承認・称賛」
- (4) 「生き方のモデルを学ぶことのできる豊かな人との交流」
- (5) 子どもに寄り添う心豊かな教師

2. 課題:「児童のつけない力の洗い出しと探究的な学習のあり方について」



木曽漆器協同組合から感謝状R4.3.

児童手製漆器箸記念品に
木曽櫛川小 桜沢トンネル開通で